

七〇年万博から九〇年花博へ

平井正治

国策興業としての博覧会

一九七〇年大阪万博は「人類の進歩と調和」というテーマであったが、万博工事と同時に「万博に原子の灯を」と敦賀原発の突貫工事が行われた。会長石坂泰三（東芝）、副会長若原良重（関西電力。花の万博では名誉顧問）。会場には電気事業連合会の電力館があり、原子力の平和利用の宣伝が行われ、電気企業の多くが出展した。

七〇年万博の狙いは原子力発電の推進にあったが、おまつり騒ぎにかき消されてしまった。日本の国家的事業として行われる博覧会は、明治以来産業を奨励し、富国強兵を目的とし、殆どが電気博覧会であった。国家がその目的遂行のため行うまつり、イベント、博覧会を国策興業という。

花博は、はじめ大阪市制百周年（一九八九年）記念事業の一つ、花の博覧会・園芸博として計画された。

八九年は全国各地で市制百周年記念博が開催されたので、一年ずらせることになった。そこで、大阪二一世紀計画の行事の一つとして取り込むことになり、花博が花と緑になり、国際博とすることになった。

国際博ということになると政府レベルになるが、二一世紀協会や財界が参加することによって、従来の国庫補助が三分の二であったのを二分の一に減らすことが出来るという。中曽根内閣の民間活力の導入路線に迎合することで政府の承認をとりつけようとした。

当時中曽根内閣は環境破壊問題の矛先をそ

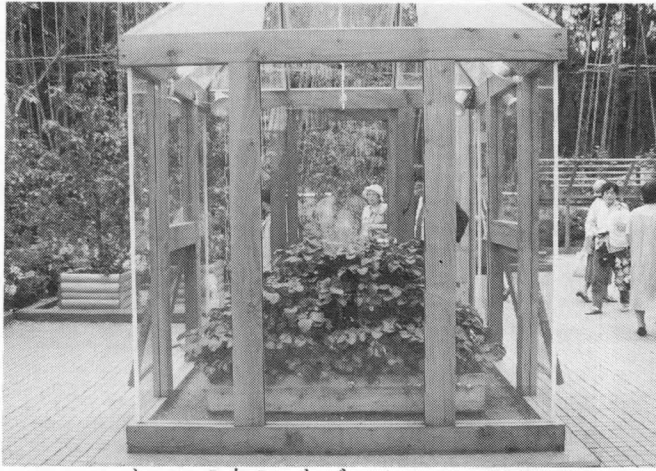
らせるため「緑の三倍増計画」を打ち出していたので閣議決定し、博覧会国際事務局（パリ）に申請し国際条約によって承認された。

'90「国際花と緑の博覧会」花の万博は、人間と自然の共生、をうたっている。しかし、推進側の主張する、七〇年万博で先進国の仲間入りを果たし、七五年沖縄海洋博で戦後を終えた。八五年つくば科学博でハイテク時代を迎えた。「九〇年花と緑で生活を豊かに」とは表面のこと、日本国内の乱開発はもとより、国際的にも日本の森林破壊が問題になってきている。

八六年二月、大阪府、市、二一世紀協会、関経連、造園協会などが参加して「国際花と緑の博覧会協会」が設立された。

設立趣意書の中に「花博の開催は国民の理解を深め、わが国の姿勢を内外に示し、国際親善を促進する好機……、として」国民全体の協力で国家的事業を成功させる、と決議している。

しかし、博覧会国際事務局（パリ）から「園芸博の伝統を守るように」と、クギを刺されている。このように日本の花博に対して、海外では原則的に疑念をもっているようであった。



ケースの中のいちご（'90 花の万博会場で）

自然を破壊する花博

事実、その通り工事が進むにつれて、花と緑とかけはなれたものになっている。花博は計画のはじめ頃から園芸派と建設派の対立があった。園芸派はそれなりに野外を主とした花と緑を考えていたが、建設派は植木と庭園だけでは金も人も集まらない、花と緑は飾りものとパビリオン、レストラン、場内交通システムなど金儲けに走った。

阪大教授の起草した格調高い基本理念とは関係なく、建設業者の談合、出展業者の利権がらみのトラブルで計画は変更され、中止になるものが続出。パビリオンの多くが電気業界で、音と光と映像、花と緑といってもバイオ野菜と人工の花、ロボットの苗作り、観客を一ヶ所に停滞させないための場内交通システムはテスト段階で故障を続出させながら、七〇年万博の半分にもならぬ面積のところこにひしめきあっている。

花博以前から何かと環境問題のあった生ゴミと残土の埋め立て地であったが、緑地公園として造成されながら約二〇年、ある程度の木と緑が根付きはじめていた。それが殆ど無くなっている。花博工事のため約三万本の木が抜き取られた。会場内大池に自然に住みついていた魚数千匹が死滅させられた。博覧会

屋（ランカイヤ）という業者まかせて飲み食い汚職に揺れ動く大阪市は何の指導も監督もできない状態で、花と緑は消えてゆき、ただの見せ物興業となっている。すでにこうした問題について、内部からもプロデューサーが辞任をも申し出るなどくすぶり始めていた。いずれ博覧会終了後、博覧会国際事務局その他からの批判が出ることは明らかで、国際親善を促進するはずの博覧会が国際摩擦を引き起こすことになることは、推進派の中からも言われ始めている。

大阪二一世紀協会というのは、八一年四月に大阪府知事、市長、大商会頭、関経連会長万博記念協会会長の五者会談が行われ、七〇年万博以後落ち込んでいる大阪経済を、大阪築城四〇〇年まつりで景気付けしようということから始まった。今太閤取りの松下幸之助をかつぎあげた。

八二年、二一世紀協会が発足、会長松下、副会長岸（知事）、大島（市長）、芦原（関電）、日向（関経連）、古川（大商）、理事には財・官・学・文化・労組などの五〇名が名を連ねている。二一世紀協会は、府、市各二〇人、参加企業と合わせて一〇〇人の職員で構成さ

れたが、給料は、それぞれ派遣したところが支払っており、他都市には見られぬ不思議な団体、(協会広報部長)という無責任な馴れ合い団体なのである。

八三年、大阪築城四百年まつり、大阪城博、世界帆船まつり、御堂筋パレードとまつり漬けて二一世紀計画がスタート、皇太子が開会式に来ることで権威付けをした。

八三年一月、協会は「二一世紀計画、大阪創生のグランドデザイン」の基軸を発表した。その第一の目的は関西新空港の早期実現であり、この基軸のもとに学園研究都市、テクノポート、国際会議場建設その他の計画が

天王寺博から花博へ

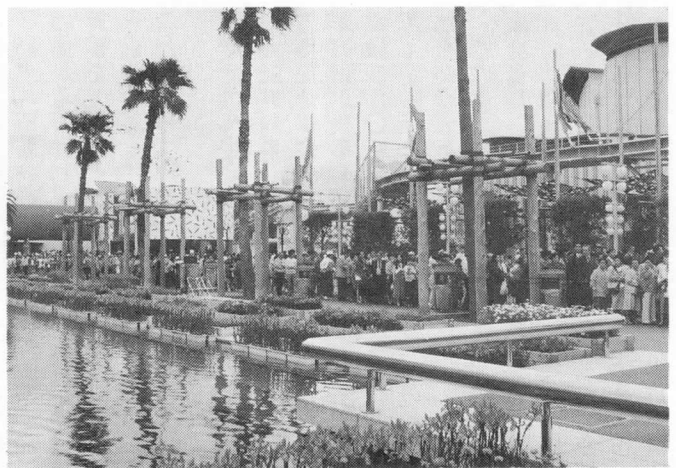
八七年の天王寺博も関西新空港の大阪の南の玄関口にあたる天王寺駅周辺の再開発を促進する目的で二一世紀協会が開催した。

初代会長松下幸之助は、堺植樹祭の請願をした功により勲一等をもらい、花博会場に五〇億円寄贈による記念館を建て博覧会終了後も残されるという。副会長岸知事は、八三年御堂筋パレードの警備費用三億円について、いざれ空港ができると大阪で先進国サミットをやる。その警備の訓練だと思えばよい、という談話を発表しており、二一世紀協会のいう国際会議場はサミット会場となる。

盛り込まれている。これらの施設は空港ができたとき、大阪が通過都市にならないためのもの、空港ができなければこれらの計画は絵に描いた餅になる(協会談話、というもので、これらの計画を盛り上げるために築城まつりを第一のヤマ場とし、第二のヤマ場を九〇年花博、九五年に新空港開港記念航空博(開港の見込みがないので立ち消え)そして二一世紀まつり、その間のつなぎとして地方博やイベントを繰り返し、大阪のイメージを世界に広め、地域の活性化をはかる、というのである。

学園研究都市は、京阪奈にまたがる丘陵地帯の緑をなくし、テクノポートその他ベイエリア構想は大阪湾を埋め立てる。

新空港、学研都市、花博とその関連道路、交通施設づくりと建設ラッシュの大阪は労働災害、交通事故いずれも全国一、人手不足は労働者の健康をむしろんでいる。計画は計画として、実状は、すべての面で政財界の利権と欲望のせめぎ合いのなかでポロポロになっている。それでもつぎ込んだ資本を取り戻そうと、さらに深く破滅の淵にのめり込んでいくのが二一世紀計画である。



なぜかパビリオンだけが大きはやり (’90 花の万博会場で)

八三年築城まつりの時には、秀吉の侵略拠点であった大阪城まつりに対して、「ちよっと待て築城まつり」の反対運動があり。秀吉抜き街づくり四百年になり、八七年天王寺博の時には、行く当てのない野宿者三百人を追い出して、何が「いのちいきいき・人いきもの共存を求めて」かと反天博の運動があり、五億円の赤字を出している。「自然と人間の共生」「花と緑のいのちの賛歌」と歯の浮くような宣伝文句とは余りにもかかはなれ

た実態。会場は、夜一〇時まで音と光のショー、大阪城、港大橋、中之島、御堂筋と深夜までライトアップ、電力消費量はつくば科学博よりはるかに多くなる。

二月二十八日夜、花博会場は全部点灯公開した。翌日の新聞はカラー写真で報道した。ワアきれい、花博に行きたい。子供たちは騒いでいた。中二の女の子がそとつづやいた。「花がかわいそう」。

国際博ということで慣例により、皇太子が名譽総裁になり、八九年五月会場視察、開会

式出席、四月二二日天皇来阪。二九日のみどりの日に向けての行事が行われた。

皇族、国賓が来る。外国から客が来る。街を美しくしましょう。「美フレッシュおおさか」

たすきをかけた町会役員、エプロン姿の婦人会、大政翼賛会、国防婦人会スタイルのパレード、会社で、町会で、商店街の売り出しで、前売り券の押し売り。いつも目をつけられるのが子供たち、すでに学校には参加の手引書が配布されている。関西新空港をダシに、民衆を巻き込んで行われる民活・国策興業。こ

こ数年博覧会潰けでだまされ続けてきた人々の抵抗は、結果として現われてくるのは目に見えてくる。

会場の鶴見緑地は一九四一年第二次世界大戦の時、大阪防空緑地として大阪市が取得した所である。当時すでに大阪が空襲で火の海になることが予測されていたのである。

空港をダシにした博覧会会場が防空緑地の跡というの何かを暗示しているようだ。

ベランダ
崩落事故

人手不足、突貫

16歳 重傷の息子に「ごめんね」



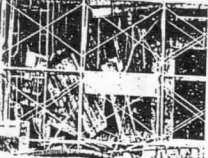
大阪・西成区の
マンシヨン事故

工法・強度に問題か
H形鋼接続など見易さ

鉄骨もろとも23人



ベランダ落下
3人死亡事故



鋼材下敷き3人死ぬ
マンシヨン9階で作業中

大阪・西成
の建設現場

落下
工事方法にミス？



救出作業に8時間
下請け労働者ら犠牲



安全性は業者任せ
一人は重傷

新今宮小中学校跡地その後

一九八五年、今から五年前に、「新今宮小中学校の跡地利用」についての署名運動にご協力をいただいた。

「新今宮小中学校」というのは、釜ヶ崎の事情があつて就学困難な状況に置かれていた子どもたちのための学校であつたが、最後の卒業生が一九八四年に卒業し、廃校となつたその跡地を、釜ヶ崎の「大人と子どもの共生の場」として解放することを、大阪市に求めるといふのが、署名運動の主旨であつた。

全国のキリスト者、学校教職員、部落解放同盟の人々、そして地元労働者などの協力で、一万七千名を超える署名があつまり、正式窓口も定まって、五年にわたる行政交渉が繰り返された。

私達の、釜ヶ崎の現実に基づいた要求は、ぜひとも実現したいものであつたが、行政「タテ割り」の姿勢は崩せず、結果は、一体感を失つた複合施設としての再生となつてしまつた。

そのことの大ワクでの合意が成立したのが本年二月のことである。

理想とはへだたつたものになつたとはいえ、子どもたちの遊び場、労働者の図書室、談話室、そして、高齢者のための救護施設が、こ

れまで地元の反対で実現できなかったにもかかわらず目の目を見たのは、子どもや釜ヶ崎の労働者のためには喜ぶべき成果となつたと思う。ご報告申し上げると共に、あらためてこれまでの協力にお礼申し上げます。

(文責、松繁)

ニ ュ ー ス ②

「出会いの家」近況

新しい「出会いの家」が一九八九年十二月十七日オープンしてから約半年が経ちます。

全国からの多くの御支援と、ボランティアの方々助けられ初期目標通りの活動が出来ましたことを感謝致します。一ボランティアの目から見た現況と、感じたことを報告致します。

宿泊者は老人、傷病者で困窮しておられる方が対象で年中無休です。天候、仕事量等で変動がありますが、一日の宿泊者は五十人〜八十名です。受入は午後四時からで、汚れて



いる方は、シャワーに入り衣類も着替えて頂きます。夕食は五時からで、ボランティアの心籠つた「どんぶり物」でお代りも出来ます。就寝まではテレビを見て頂きます。私達が夜廻りで見ると野宿者の飢え、寒さ、不安に怯えた様子と異なり、満腹し安心した寝顔を見る時、本当に此の家が出来て良かったと思えます。翌朝九時には全員出てもらいますが、傷病者、居宅保護希望者は残つて頂き、各関係福祉に同行しお世話致します。これには丸一

日かかりますが、この時が一番彼等との深いかかわりの持てる時です。五月末迄の約半年間の入院、入寮者は、百四十一名。居宅保護者十六名です。私達の活動は傷病等で働けず困窮している方々が再び元気に自立すること

二 ユース ③

山谷労働者福祉会館今夏(9月中)竣工!!

自分達の手で仲間の集う拠点を造ろうと、山谷に鉦音が響き始めて八ヶ月、五月末には三階が完成し、設備工事、内装を終えて、八月末には、待望の竣工の予定である。一九八六年一月十三日に金町一家の凶弾に倒れた山岡さんの「山谷に日雇労働者の自立と解放の拠点を」との遺志が実現を見るのも間近である。

「日本の産業を根底で支えているのは、紛れもなく寄せ場労働者と呼ばれる人達である。国策事業、公共事業に動員され働く程自分を排除した社会に奉仕する事になるという矛盾の中で労働者達は生きる為に過酷な労働を強要され、社会、国家に貢献してきた。然し、怪我や体力の衰えから働けなくなると、保護もなく、使い捨てられ野垂れ死にを強いられる。」

今、山谷に労働者が自分の流儀で使える家が建ちつつある。この会館は山谷の仲間達が自らを解放する為に築く始めてのものかもしれない。

を第一としていきます。私達のかかわった方が、早朝の愛隣労働センターで元気に働きに出る姿を見る時、最高の喜びを感じます。

(T・O)



完成近い会館で働く労働者

賛助会員・カンパのお願い

賛助会員を募ります
これまでほんとうに多くの人々から心暖まるカンパを頂戴し、やっと着工へのメドがつかしました。しかしながら土地取得代金、建設費がすべて補える状態ではなく、借入れ金をおこさざるを得ません。今後、会館運営が自力更生の道を歩むまで力をお貸し下さい。

月額 2,000円、目標 300人

1口1万円カンパを!

本来、カンパの額をこちらから決めてお願いするのは心苦しいのですが、これまでの1000円、5万円、10万円のカンパと合わせて、1口1万円カンパの集中を。

目標 3000人

土地取得代金 1億3000万円 (40坪)

建設費用 6000万円 (32坪)

地上3階地下1階

東京都北区田端新町1-27-12 TEL 03-810-6422

郵便振替口座：東京2-178842、山谷労働者福祉会館設立委員会

れない。それは、山谷の仲間の一人一人の想いと共に、寄せ場に心を寄せる多くの人々の、一つ一つの想いの具体化である。」

(「山谷から」No.15より)

山谷会館設立に当り、全国の仲間、友人から、多大の御支援を戴きましたが、完成までにおお一七〇〇万円必要です。又会館の維持運営の為に、どうか、賛助会員になって下さい。会館が自立の道を歩めるまで、仲間として、力を合わせていこうではありませんか。

一に考え、玄米が中心です。働く人の健康を考えるこの食堂は狭いながらも固定客があり、わきあいあいとしたふんいきをつくっています。

地域に育つこともたち

十一ある釜ヶ崎キリスト教協友会の二つのグループは、これまで共に活動を展開しています。守護の天使修道女会が経営する「こどもの里」と父母とリーダーが協力して活動している「エリザベス・ストローム記念、山王こどもセンター」。「こどもの里」は幼児から中学生までが毎日二十名、三十名、放課後遊び場として利用されています。父子、母子家庭の問題、教育の問題などが山積みされています。子どもたち、リーダー、職員が協力しながら未来に向かって問題と取組んでいます。「山王こどもセンター」は釜ヶ崎隣接地域にあり、毎日留守家庭の小学生の学童保育をしています。また地域のこどもたちがボランティア、リーダーと遊び、学び、生活することを通して、社会性、自主性が育つように願いをこめて活動を展開しています。

「出合いの家」の新しい出発

在世フランスシスコ会の会員である渡部宗正さんは足掛け四年前より「出合いの家」で独自の活動を始めましたが、この活動のため古い宿を二軒購入し、今年の越冬活動より、大型無料宿泊所、医療相談、生活相談、軽作業の家として出発できるように急ピッチで改築作業が進んでいます。十二月十七日オープンの手定です。

「アジアン・フレンド」の活動

今夏から中国難民の問題が連日マスコミを通して報ぜられ「経済難民」は「ニセ難民」であると印象づけられています。しかし「経済難民」は外国人出稼き労働者の問題であり、彼らが困難を冒してまでなぜ日本に来ようとしたかを考え、解決に努力しなければならぬのは日本自身であるはずで、九八年六月に発足した「アジアン」から出稼き労働者を支える会（アジアン・フレンド）はKUIIM（関西キリスト教都市産業問題協議会）釜ヶ崎委員会の小柳伸顕牧師も、協友会の有志、ボランティア、釜ヶ崎日雇労働組合、市民活動団体と共に手を取りあって、外国人出稼き労働者の問題と取組んでいます。十一月六日(日)には玉造カトリック教会の庭で「アジアン・フェスティバル」を行

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

いきました。フィリッピン、ベトナム、在日韓国・朝鮮人、中国、タイその他の国の人々も集まり、盛会でした。参加者約八百名。

越冬が始まります

今年も越冬闘争が始まります。釜ヶ崎の近くで貧しい者の生活共同体運動を行っている社会福祉法人暁光会大阪支部を越冬の拠点として十二月二十五日から三月まで人として生きるための闘争を展開されます。この冬も協友会の活動をご理解の上、越冬活動にも全面的なご協力をお願いしたいと思います。

協友会も山谷労働者福祉会館にカンパします。

九月二十四日、山谷の労働者として共働するキリスト者たちが待望した「山谷労働者福祉会館」が、着工しました。「山谷に会館がほしい」との声があがって三年目。いろいろな苦勞の拠点で、ようやくみんなが力を合せて建設への一歩を踏み出したのです。

会館の直接の責任者は、日本キリスト教団日本堤教会（戸村政博牧師）です。しかし、この会館は、地域にたくに日雇労働者に開かれた「会館」になることを願っています。釜ヶ崎キリスト教協友会もその主旨に賛同し、五年間にわたり毎年二〇〇万円を献げることになりました。どうかこの働きをおほえ、募金カンパの中に加えて下さい。

この会館が、日雇労働者の広場であることに賛同した釜ヶ崎の労働者は、カンパを送るとともに、旅費、資金自分持ちで、鉄筋を組みに大阪から東京まで行っています。設計以外は、すべて日雇労働者の手でやるうとの意気に燃え、建築は、山谷の労働者が中心になり、大阪のみならず、横浜、名古屋からも応援にかけています。是非、ご協力ください。お願いいたします。

一 カンパ目標 一千七百万円 二 毛布、食糧等の物資援助

- ① 毛布、石鹸、越冬期間中、沢山の毛布が必要で、食料品、米、調味料、食用油、乾物、カンヅメ、肉、野菜、ラーメン
- ②

送り先 557 大阪市西成区北津守四、四、四四
暁光会寄付 釜ヶ崎キリスト教協友会

今年も越冬夜回りをします。

私達はなぜ夜回りをするのでしょうか。近年は「福祉」と言う言葉をよく耳にし、口にもします。福祉を大ざっぱに分けると「法制化されたもの」と「自発的民間活動」に分けられます。前者の制度による援助の多くは困窮者自身の申し出がなければ何も始まりません。釜ヶ崎とその周辺での野宿者は近年の好景気でも300人を割りません。それは日本の産業構造の中での日雇制度と、彼等にたいする社会の偏見のためです。その弱い立場の労働者が、病弱、障害、高齢となると、(日雇仕事は重労働が多いのです)職を失い、無一文となり、野宿を余儀なくされます。特に今からの厳寒の夜、飢、病、寒さに曝れている人が幾百人居ても、また生命の危機にある人が居ても、「行政」は見回って援助することは一切しません。そこで「自発的民間活動」の必要性があるのです。昨年の越冬期間12月～3月の西成区の行路死亡人は28人です。人権の中で最も基本的な「生存権」を共に守ることは私達の務めです。野宿者から一人の死者も出さず彼等が春を迎えるよう皆さんの参加をお願いします。今年も学習会をします。

越冬活動日程(予定)

- 前半 12月25日～1月10日 25日越冬突入集会、31日～3日第15回越冬ゼミ
- 後半 1月11日～2月末日

釜ヶ崎キリスト教協友会、夜回り予定表 (1月11日～2月末日)

| 曜日 | 集合場所 | 時間 | 電話 |
|----|--------|-------------------|----------------------------|
| 月 | ふるさとの家 | 学習会 9時 出発 10時 | 06(64)8273 |
| 水 | 暁光会 | 出発 10時半 | 06(562)0086 |
| 木 | 旅路の里 | 学習会 9時 出発 11時 | 06(64)7183 |
| 金 | 希望の家 | 学習会 10時 出発 11時 | 06(632)1310 |
| | | 学習会 9時 出発 10時 | 06(647)1322 06(645)7751 |
| 土 | こどもの里 | | |



一九八九年釜ヶ崎越冬たより

第二十回目の越冬

「仲間内からひとりの死者を出すな、仲間の団結で仲間の命を守り抜け!」のローガンで開始された越冬闘争も二十回目となりました。日雇い労働者の高齢化、行政・警察・地域住民による「環境美化推進運動」のもとに行なわれている野宿者排除は、露骨に行なわれています。

六五年当時二十代、二十代で八十%近くを占め三十四才だった平均年齢も現在では、五十才以上が四十五%、十人に一人は六十才以上と高齢化しています。八六年からの「内需拡大」政策による土木・建設産業の空前ともいえる好景気は、今も続いています。釜ヶ崎で求人している二七六事業所の約三十%がならかの年齢制限を設けている現状の中で仕事に行けない高齢者・病弱者は即野宿にと追い込まれていきます。みぞうの好景気といわれていますが、労働者の間に「貧富格差」・孤独化の問題が生じています。今の日本社会の縮図といえます。

「わしらを人間扱いしてへん」との労働者の怒りで釜ヶ崎の存在が広く世に知られて二十八年。釜ヶ崎キリスト教協友会が結成されて今年で二十年。が、街に労働者一人一人に明るく展望がみえてこないのが現状です。

多くの重い課題が山積みの中、一人一人に目を向けての地道な動きが必要とされています。今回も多くの方から暖まるカンパ、食料、毛布、衣類などの援助を沢山いただき、ありがとうございました。又、多くのキリスト者が越冬活動に参加して下さい、様々な出会いがあったことをお知らせします。

大阪市の人権感覚を疑う

野宿生活を強いられ、路上で死を迎える労働者の数は、好況と言われる今冬も少しもへることがありません。行政は、好景気を理由にそれらを個人の責任に帰そうとします。だが、個人の歴史を聞くとき、責任はむしろ、行政の怠慢にあることを知らされます。

大阪市は、その責任追求の矛先をそらすため、二十余年、吹きさらしの南港にプレハブの宿泊所を二週間ほど仮設し、臨時に労働者を宿泊させてきました。

その「対策」があまりにも労働者の人権無視なので、今回もまた年末の十二月十一日、大阪市に対し、要望書を出し、話し合いました。要点は次の通りです。(一)臨時宿泊所の期間を二月末(注)例年一月七日〜八日まで)まで、希望する労働者を全員無条件で入所させる。また治安優先の対策をやめ、機動隊を常駐させたり、入所者との面会を妨害しない。(二)行路死につながる路上生活者に対して抜本対

人を人として! 今年も協友会の活動にご支援を。

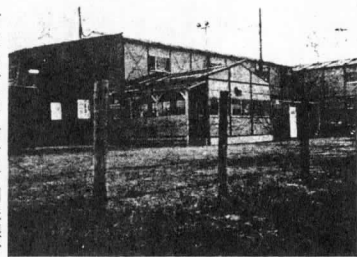
協友会通信17
1990年2月
釜ヶ崎キリスト教
協友会
代表 中島文雄

連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
TEL 06-641-7183
FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号
大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会



大阪南港の臨時宿泊所

舎の周辺には二重の有刺鉄線で柵を作り、機動隊を常駐させたのです。面会は、二、三人で来れば、面会室で会わずと約束しながら、実際には、有刺鉄線の外の路上で面会です。それもたった一度。あとは、面会さえ許しませんでした。

臨時宿泊所は、強制収容所ではありません。これが民生行政、あるいは、大阪市の釜ヶ崎労働者への人権感覚です。一月四日、労働者たちは、大阪市に抗議の意を示すため朝八時半すぎ、三角公園を出発しました。一〇〇人の抗議デモにそれを上まわる機動隊等がつけまわりました。約二時間のデモのあと大阪市に抗議文を手渡しました。

大阪市は、釜ヶ崎の労働者の越冬に一億円余を支出したと胸をはります。その中身は、プレハブの借代用、アルバイト学生の日二万円の賃金、市職員や警備の手当です。ここにも昨年末発覚した大阪市の汚職体質が読みとれます。自分たちの懐は肥やすが、労働者の立場には決して立ちません。

四月から花と緑の万博が始まります。その直前に、野宿を強いられた労働者たちを強制排除し、表面だけをとりつくろう行政の手のうちが、いまから心配です。それをみすみす許してはなりません。

天王寺公園有料化について

天王寺公園有料化に関する条例が、大阪市側の発表からわずか一週間という速さで可決されてしまいました。

大阪市は新しく作った施設の整備、維持のために有料化が必要である、といっています。誰が石とコンクリートで作られた人工的なものを欲しがっているのか? 大阪市は、それだけでなく緑や土が少ないので公園も多クはあります。本当に人々のいこいの場所を作る気なら、緑と土がたっぷりあり、もちろん無料の公園を作るべきでしょう。天王寺博覧会開催以前の天王寺公園は、釜ヶ崎のおつち

策をたてる。(三)花と緑の万博にかこつけた「環境美化推進運動」で、野宿生活者・労働者を強制排除しない。話し合いで大阪市は、昨年なみを回答しました。しかし、十二月二十九日〜一月七日まで開設された宿泊所の実態は、約束違反の一言につきます。一千百人の定員に対し入所させたのは六六人。宿

今年も越冬夜回りをします。

私達はなぜ夜回りをするのでしょうか。近年は「福祉」と言う言葉をよく耳にし、口にもします。福祉を大ざっぱに分けると「法制化されたもの」と「自発的民間活動」に分けられます。前者の制度による援助の多くは困窮者自身の申し出がなければ何も始まりません。釜ヶ崎とその周辺での野宿者は近年の好景気でも300人を割りません。それは日本の産業構造の中での日雇制度と、彼等にたいする社会の偏見のためです。その弱い立場の労働者が、病弱、障害、高齢となると、(日雇仕事は重労働が多いのです)職を失い、無一文となり、野宿を余儀なくされます。特に今からの厳寒の夜、飢、病、寒さに曝れている人が幾百人居ても、また生命の危機にある人が居ても、「行政」は見回って援助することは一切しません。そこで「自発的民間活動」の必要性があるのです。昨年の越冬期間12月～3月の西成区の行路死亡人は28人です。人権の中で最も基本的な「生存権」を共に守ることは私達の務めです。野宿者から一人の死者も出さず彼等が春を迎えるよう皆さんの参加をお願いします。今年も学習会をします。

越冬活動日程(予定)

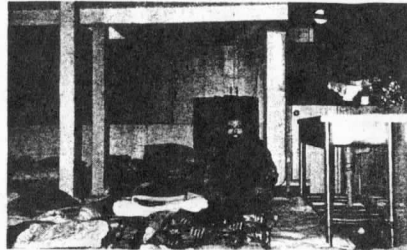
- 前半 12月25日～1月10日 25日越冬突入集会、31日～3日第15回越冬ゼミ
- 後半 1月11日～2月末日

釜ヶ崎キリスト教協友会、夜回り予定表 (1月11日～2月末日)

| 曜日 | 集合場所 | 時間(PM) | 電話番号 |
|----|----------------|----------|-------------|
| 月 | ふるさとの家 | 集合 9:00 | 06(641)8273 |
| 水 | 晩光会 ※自転車で回る | 集合 10:00 | 06(562)0086 |
| 木 | 旅路の里 | 集合 9:00 | 06(641)7183 |
| 金 | 嘉望の家 | 集合 10:00 | 06(632)1310 |
| 土 | こどもの里 | 集合 8:30 | 06(645)7751 |

※車で来る人は、三角公園付近に駐車してください。
※時間に変更がありましたのでご注意ください。
※3月18日(日)2:00「反省とまとめの会」嘉望の家 2階

昨年十二月十七日に多数の方々を迎え、安田久雄大司教、司式のもとに開所式を喜びのうちに行事が出来ました。釜ヶ崎になぜ大型の無料宿泊所が必要なのか? 皆様もよくご存じの様に釜ヶ崎内又、他の周辺において、野宿をよきなくされている方々が多いのが現状です。野宿をしていられる方々の中で特にお年寄り、体の弱い人々のために大型の無料宿泊所が必要なのです。



出合いの家の内部と聖堂

「出合いの家」大型無料宿泊所完成
昨年十二月十七日に多数の方々を迎え、安田久雄大司教、司式のもとに開所式を喜びのうちに行事が出来ました。釜ヶ崎になぜ大型の無料宿泊所が必要なのか? 皆様もよくご存じの様に釜ヶ崎内又、他の周辺において、野宿をよきなくされている方々が多いのが現状です。野宿をしていられる方々の中で特にお年寄り、体の弱い人々のために大型の無料宿泊所が必要なのです。

人を人として! 今年も協友会の活動にご支援を。

り釜ヶ崎地域及び周辺を歩き、相談をしています。五時より室に入ってもらい、食事をとってもらった後に休んでもらう様にしています。多くの方々は連日の野宿生活でゆっくりに寝ていないため、そしてお腹がいつぱいのため、すぐに高いびきです。安心しきった寝顔をみながら私達も幸せな気持ちにならせていただいています。人手不足に頭を痛めている今日この頃です。

〒557 大阪市西成区茶屋二丁目一五八 TEL 六三三〇七九八

キリスト教西成生活相談室閉室

キリスト教西成生活相談室が昨年暮をもって閉室いたしました。キリスト教協友会の一つのグループが抜けたことは残念なことでした。入佐さん、志村さんから次のあいさつが寄せられました。

キリスト教西成生活相談室は十二月三十一日をもって閉室いたしました。長い間、御支援、御協力いただきまして誠にありがとうございました。十年前から、キリスト教釜ヶ崎越冬委員会に関わって地域を巡回し、労働者に声をかけ、信頼関係を築くりつて対話を中心とした活動を行ってきました。病気になる人が一時でも早く発見して治療を受けられるように、また元気に働いている人には、健康維持、増進のために協力してきました。ここ五、六年前から、高齢労働者がアパートに入居し、生活保護を申請することなどを行いました。病気をなおすことは、生活をなおすこととである。ということが気がきました。

ケースワーカーとして働いてきましたが、私の方が教えられることが多く、自分の姿をみつめなおさせられました。また労働者のやさしさ、あたたかさによって心が開かれ、支えられました。しばらく休養しながら、今日まで学んだことを反芻していきたいと思っています。 入佐明美

二年間、地域を巡回し、労働者と話をするなかで、いつも私の生き方、信仰が問われ、自分の本当の姿というものが、あらわになってきました。醜く自己中心的な私。この姿を素直に認め、しっかりと自分と向き合うことが、これから私に必要なことだと教えられました。 志村満子

一 カンパ目標 一千七百万円 二 毛布、食糧等の物資援助

- ① 毛布、石鹸、越冬期間中、沢山の毛布が必要です。
- ② 食料品、米、調味料、食用油、乾物、カンヅメ、肉、野菜、ラーメン

送り先 〒557 大阪市西成区北津守四丁目四四四
晚光会気付 釜ヶ崎キリスト教協友会

1989年度カンパ ご支援を深く感謝します

協会も発足して今年で20年になります。当時は釜ヶ崎の実態も解らず、唯、如何にして労働者との接点を求めるかが、切実な問題でした。組合の越冬活動にも、支援できずに過ごした当時を思うと、隔世の感があります。その後、越冬の炊き出し支援を続けることによって、組合との絆が少しづつできはじめ、1975年キリスト教越冬委員会を創り、連帯活動の第一歩が始まりました。越冬後半は自主的活動に取り組み、現在の活動の下敷きを作りました。カンパ要請もこの時から実行され、この小さい活動も物心両面の支援によって、徐々にその輪が拡がり現在に至りました。

今年は山谷の労働者福祉会館建設に当り、支援要請に対し、応分の支援を致しました。

多くの産業プロジェクトにより、労働力不足は釜ヶ崎の労働者にも喜ばしいことですが、その影で捨てられた、高齢者、障害者の人達は、確実に増え続ける現実が、年間の夜まわりで裏付けされています。

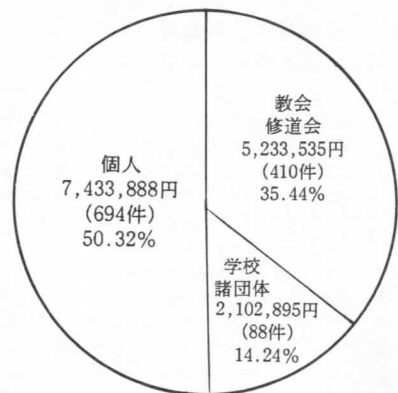
90年代に入り、釜ヶ崎にも国際化の波が押し寄せ、外国人労働者の問題があります。今後私達自身も労働者自身も、今まで経験していなかったことに、真摯な心をもって、友好をつくっていかねばならないと思います。

新しい世代に向かって、これからの活動に皆様にも、今までと変らぬご支援とご協力を、お願い致します。
(会計、谷)

カンパ支援

1989年4月1日～1990年3月15日

総額 1,192件 ¥14,770,318



| 地域別 | 送金別 | 個人 | | 教会・修道会 | | 学校・諸団体 | |
|------|-----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 件数 | % | 件数 | % | 件数 | % |
| 大 | 阪 | 150 | 21.9 | 98 | 23.9 | 16 | 18.2 |
| 近 | 畿 | 140 | 20.2 | 150 | 36.9 | 33 | 37.5 |
| 中 | 国 | 41 | 5.9 | 38 | 9.3 | 9 | 10.2 |
| 四 | 国 | 20 | 2.9 | 18 | 4.4 | 4 | 4.6 |
| 九州・沖 | 縄 | 87 | 12.5 | 55 | 13.4 | 10 | 11.4 |
| 東 | 海 | 35 | 5.0 | 9 | 2.2 | 1 | 1.1 |
| 関東 | 東 | 142 | 20.5 | 24 | 5.8 | 12 | 13.6 |
| 東 | 北 | 31 | 4.5 | 10 | 2.5 | 1 | 1.1 |
| 北 | 信越 | 34 | 4.9 | 1 | 0.2 | 2 | 2.3 |
| 北 | 海道 | 12 | 1.7 | 7 | 1.7 | 0 | 0 |
| 合計 | | 394 | 100.0% | 410 | 100.0% | 88 | 100.0% |

あいらんの労働者描いた

「カマヤん」海渡る

英訳されアジアの国々へ



ありむら さん

大阪府西成区のおいらん地区(金ヶ崎一帯)を舞台に、日雇(労働者の主人公が笑)を武器に逆境をくましく生活する漫画「カマヤん」の新単行本が英訳され、フイリビシ・マレーシアなど日本への出稼ぎが多いアジアの国々へ送られることになった。作者のありむら さん(ペン名・有村 潤)は、財団法人「西成労働福祉センター」の職員で、「カマヤん」を描き上り余。「日本の繁栄の裏側を、笑(を)通してアジアの人々に知ってほしい」といふ。「カマヤん アジア・太平洋を行く」と題し、六月中旬に発売の予定。

199-5-19 朝

「経済大国日本の裏側を伝えたい」

「カマヤん」は、昭和五十二年(一九七七年)から同センターの月刊広報紙「地下たむけ」の主人公「カマヤん」にありむら さんが描き続けて、今、四コマ漫画、ひげ面に録音、をしながら、労働者の心情を哀

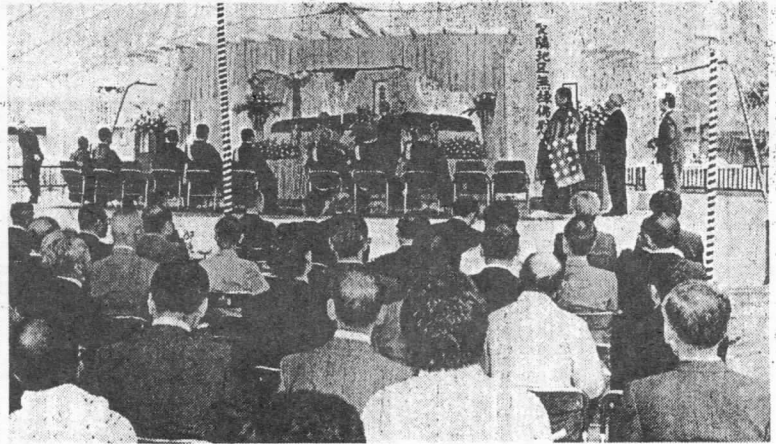
歌を笑いで表現、時には、社会のひずみや政治のゆがみを皮肉の「ストーリー」はありむら さんがセンターの仕事を通じて知った人間模様を映し出している。漫画雑誌に連載されたこともあり、これまでに単行本が二冊、計約四万三部が出ています。第三集「カマヤん アジア・

太平洋を行く」は、百五十本前後の四コマ漫画のうち半分が新作を書きおろし。「カマヤん」は、飛ぶ鳥を、若いころは船員として日本の海を渡り歩き、その後、英船もメスラという船で、この数年、地区の労働者が建設現場で東南アジアからの出稼ぎ労働者として作業をするケースが増加、そんな現場でのエピソードを盛り込み、ありむら さんが去年十一月で利益をあげてきた。日本への出稼ぎも年々増えている。日本にいる外国人労働者にも読んでほしい。漫画だから受けやすいことを言うつもりはないが、日本の産業社会のひずみの部分

を少しでも理解してもらえればうれしい」と話している。イギリス女性に依頼した英訳を大分市福成区の日本機関紙出版センターから出版の予定。取材旅行で知ったフイリビシ、マレーシア、シンガポール、タイの新聞社など報道機関や政治家、消費青年団体のほか、香港、ニュージーランドなどでも送り、幅広く紹介して欲しい。

ありむら さんは「日本の企業」がアジアで低賃金労働力を使うことが去年十一月で利益をあげてきた。日本への出稼ぎも年々増えている。日本にいる外国人労働者にも読んでほしい。漫画だから受けやすいことを言うつもりはないが、日本の産業社会のひずみの部分を少しでも理解してもらえればうれしい」と話している。

無縁仏90人のめい福祈る



無縁仏になった労働者のめい福を祈る人たち

西 あいりんんで慰霊祭

西成区の道路などで病死した労働者のうち、遺骨の引取り手のない身元不明の無縁仏の慰霊祭が29日(あいりん会)会(堀田次郎)を前に、機橋弘映・四天王寺十八日(区)秋(茶屋三)の秋(金)三十四日(昭)四十(茶屋公園)通称・三角公(一年)の(行)て(あり)今(回)で(三)千人の(日)無(縁)労働(者)住(今年)は、(昨)年(四)月(か)ら(今)年(三)月(未)ま(で)に(な)った(九)十(八)人(昨)年(百)七(十)七(人)が(対)象(午)後(二)時、(小)雨(の)は(ら)つ(く)梅(雨)空(の)下、(傘)を(さ)した(労働)者(ら)約(百)人(が)参(拜)。仮(設)祭壇(を)前(に)、機(橋)弘(映)・四(天)王(寺)次(々)と(懸)垂(に)加(わ)り、市(富)南(區)阿(倍)野(区)に(遺)骨(が)安(置)さ(れ)て(い)る(無)縁(仏)の(めい)福(を)祈(った)。

1989. 4. 22
毎日(朝)

生き埋め2人死ぬ

宝塚 排水管理設中、土砂崩れ

二十一日午後四時十五分ごろ、兵庫県宝塚市川面長尾山の市営長尾山霊園で、同県厄崎市武庫豊町三、建設会社徳山組一、徳山富雄社長(六〇)の土木作業員、金采出さん(六〇)と同、関内宇さん(四三)の二人が深さ三、幅二、長さ五、五の穴の底で、排水管の埋設作業中、突然、側面の土砂が崩れ、生き埋めになった。通報で駆けつけた宝塚市消防部のレスキュー隊員と現場にいた同僚ら計二十五人が手で穴を掘り約三十分後に二人を救出して病院に運んだが、二人は窒息のため、まもなく死した。

宝塚署の調べでは、金さんらは、この日午前八時から同僚二人と作業を開始。パワーシヨベルで穴を掘り、排水管の埋設作業をしていたが、作業終了直前になって突然、片側の土砂が幅約二・五にわたって崩れたらしい。同署は安全管理に問題がなかったかなど、現場責任者らから事情を聴いている。

関さんは、この日から徳山組で働き始めたという。同署で身元確認をしたところ、今月八日に観光ビザで韓国から来日していることがわかった。同署は不法就労の疑いもあることから雇用のいきさつなどについて徳山社長から事情を聴く。



JR弁天町駅前に車を止め、外国人出稼ぎ者を仕事に誘う手配師

外国人不法リクルート

JR弁天町

駅前到手配師

安い賃金 建設現場に送る

日雇い労働者を建設土木工事の現場に送り込む手配師が、大阪府港区のJR弁天町駅前に毎朝出役、日本人だけでなく、不法就労の外国人にも仕事の仲介をしていることが、一日まにわかった。関西新交港や花の万博など大型プロジェクトで建設業は深刻な人手不足となり、安い賃金で雇える外国人を採用する中小の工事現場が急増。観光や就労ビザでアジア各地から関西に働きに来た人は、1万人を超すといわれ、手配師らは警察などの監視が厳しい西成区・あいらん地区を避けて、弁天町を外国人出稼ぎ者のピックアップの場としていると見られる。

同駅周辺に手配師が出役がそろそろと各方面に散ってし始めたのは、一年ほど前から。平日の午前六時半ごろから約一時間、マイクと、一帯の日雇い労働者はロボスやワゴン車が三、四十台集結。つきつきに作業員をかり集め、員数話などで仕事を予約、同駅

かかるため、半額以下の四、五千五百円に抑えらるるケースもしばしば不法就労という弱い立場に付け込んで、安く使おうというやり方に抗議して、駅前には時折「難民、大苦痛」「地獄」などと、中国人労働者が書いたとみられる「恨み」の張り紙が出たり、路上に落書きされたりすることもある。

大阪港一帯では昨年夏、資格外活動の韓国人四人を働かせていた手配師が大阪入国管理局などに摘発され、今春には九名が、アローカーを通じて入国させた韓国、フィリピン人労働者計四十一人を密に住み込みで働かせていたことが発覚した。

三十一日明らかになった。論旨免職となっていたのは、刑事防犯課署長が担当入元巡査長。問題の事件は、昭和六十二年六

天王寺公園 有料に

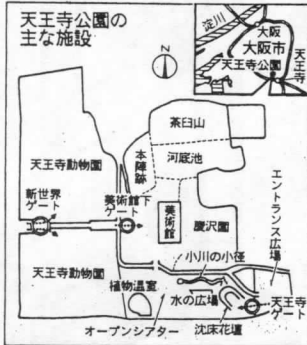
189-11-3 毎日

来年から150円

大阪市「管理費、受益者負担で」

住民「散歩道奪われる」 商店「客途絶え困る」

大阪市内有数の都市公園天王寺公園(天王寺区茶臼山町、三五・一砂)が大幅に改修、整備されるを機に、大阪府は同公園への入園を有料化する「こと」に目、その概要を発表した。現在、入園・観覧が必要公園内の市動園、市立美術館、日本園「麗澤園」を除く区域への立ち入りについても原則として一人百五十円を徴収しようとするもので、来年一月からの実施予定、有料に必要な「市公園条例」改正案が、九日から始まる定例市会に提出される。同市は「一般の都市公園以上に歴史的な動植物公園として整備するのに伴い、維持管理の一部を利用者負担してもらいたい」と説明しているが、明治四十二年に開園され、八十年にわたって「庶民の町の公園」として親しまれてきただけに、有料化反対の声は積極的。



天王寺公園内の諸施設のうち現在、動物園は大入四百円(十六歳未満無料)▽美術館は大人二百円、高校・大学生百五十円、小・中学生百円(特別展示は別料金)▽麗澤園は大人百五十円、十六歳未満百十円の入園・観覧料をそれぞれ必要とする。今回有料となるのは、入る場合、その種類だけを払

「今の有料化で、街の活気や賑わいを奪われる」と、性化を憂うとアピールする大阪市の狙いは強制的に、地元住民や地主の間には「気象散歩道が奪われる」と反対する声もあがっている。同公園のある天王寺区茶臼山町自治会役員で、養鶏店経営の山町耕一さん(五十八)は「公園は生活源。さぐりで仕切ら

れる。天王寺駅からの客が途絶えればあがった」と強く反対する。また、周辺では大規模の阿倍野店も「天王寺駅で降りたものの有料化は納税できない。植物園別日本最初の西洋式花壇があったり、天王寺公園は、公園文化財として大切にしたい。新しい公園がオープンしても園内のイベントは今のところ考えたいませ

が天王寺野舎をつぶされたのが残念でない。庶民のレクリエーションの場を失うのは困る」と訴えている。

大阪府は現在、約三十八億七千万円を計、同公園の整備事業を進めている。来年度完成予定で、公園の「天王寺」に「新世界」「美術館」上の三カ所にゲートを設ける。また、Jと天王寺駅に面したエントランス広場は、天王寺野舎会(昭和六十二年)の築、投げた花時計季節ごとに花を植え替える。天王寺ゲートを入った所に四季の草花を植えた「沈床花壇」を新設するほか、公園中央部は芝生を敷きつめ、長さ六〇メートル、深さ五メートルの人工の川や、流れに沿った「小川の小道」、波状噴水設備のある池を中心として公園側には約四百十本のバラにちなむ「バラ」を植える。

「オープンシアター」を設け、西側には天王寺博のテーマ館改修して、映像室を併設した植物温室も作る。開園時間は午前九時半から午後五時までで週一回(曜日)持管理費のうち、有料化で必要となる光熱費、警備費など一週三十万の入園料を算入している。公園入園料の百五十円半額入園者負担してもら

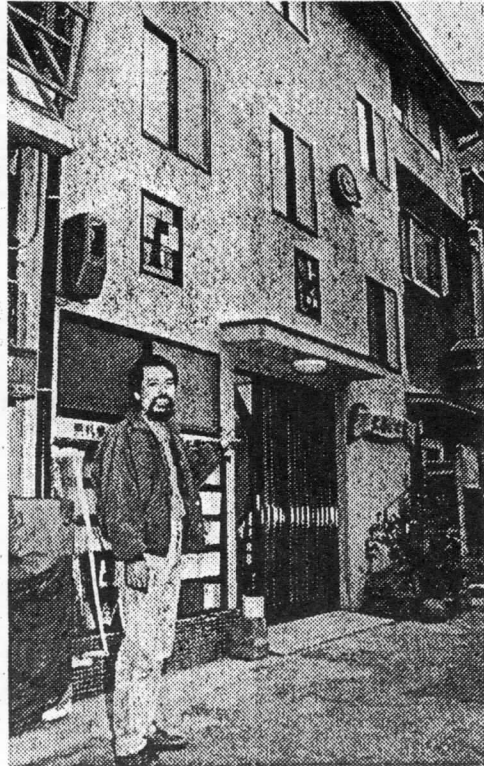
れから友好関係を結ぶにはならない。それに主催側からすればはけない」と、教育内容を調査する助の課題点を指摘した。

装い新た「出会いの家」

あいりん民間無料宿泊施設

189-12-27

増設された「出会いの家」の前に立つ渡部さん



借金して10倍に拡大

生みの親、渡部さん「愛の手」

西成区あいりん地区にある、高齢や病気で働けない日雇い労働者の民間無料宿泊施設「出会いの家」（同区秋之茶屋二）がこのほど、収容人員を約十倍に拡張した。四年前に私財をなげうって「家」をオープンした福祉活動家の渡部宗正さんだが、年の瀬を迎えても野宿をしている労働者を見て、「宿もない人のせめてもの心の安らぎの場になれば」と借金をして施設を拡大したもので、労働者たちは温かい愛の手に大喜び。

渡部さんは十一年前に、そ

れまで十三年間勤めていた食品関連会社を退職した。「仕事、仕事で力ももうけオンリ

の毎日が嫌になった」とい

い、知人のカトリック系教会

関係者の紹介で、あいりん地区のキリスト教系老人センター

この家は、二畳の個室十室と集會室、家族ぐるみで泊まれる部屋があるが、二十人が限界。満室時に、衰弱した人が訪れても断らざるを得ず、野宿者の多さを見かねた渡部さんが増築を決意した。南隣の簡易宿泊所と、四百坪の西成区天下茶屋一の簡易宿泊所を、カトリック大阪司教区の安田久雄大司教に保証人になってもらい、銀行からの借金をもとに購入。今月十六日、改装費も含め約二億円をかけて二棟とも完成した。

新しい「出会いの家」はそれぞれ木造三階建てで、いずれも延べ約三〇〇平方メートル。秋之茶屋の家屋は各階に五、六十人が泊まれる大部屋中心で最大約百八十人、天下茶屋の家屋は個室もあり約七十人が収容できる。それぞれ、毛布や下着、歯ブラシなどの日用

品を提供、生活保護手続きや家探しの手助け、食事の炊き出しなどもする。渡部さんもこの「家」に住み、日雇い労働者とともに市内の職安を回って高齢者に仕事先を探したり、重病人を引き取って看病するなど、労働者たちをバックアップしている。渡部さんによると、「家」の改装費約二千万円は教会関係者の寄付をもとに既に払い終えたが、一億八千万円かかった土地代については全額銀行に借金返済については、私財を整理するなどして二千万円を、さらに教会関係者の寄付で二千万円が集まったが、残り一億五千万円分がまだ見通しが立っていないという。渡部さんは「だれかがやらなくてはならないことなんてなくては何とか皆さんの寄付を集めて乗り切りたいのですが……」と話している。「出会いの家」は、西成区秋之茶屋二の五の八（06・633・0798）。郵便振替大阪三二二〇二二二。

編集後記

* '89年12月始めSr.Kさんから「Yさんが2日前に又病院を出てきたの、どうしよう」と相談を受けた。

Yさんとは以前から体調が悪く入退院を繰返している54歳の労働者です。私は今すぐ市更相に行ってもむずかしいし、お金も持って居るので、しばらく自分でやってもらったら、と返事をしました。それから2週間程して他の要件で市更相に行くと、職員がYさんがドヤで死んだのを知っていますかと言われた。死因は食道ガンで行旅死として処理済みとのこと。

私は頭を金槌で殴られた様なショックだった。何故あの時、親身に彼を受け入れなかったのか。

私の心に生涯消すことの出来ない彼の死であり、又彼が最後に私に与えてくれた教えであった。(O)

* いつかどこかでこんな話を聞いた事があった。「金儲けは金持相手でなく、貧乏人相手に限る」と。

釜に来て一年余、労働者の方々の生活を通して、日本社会の搾取の構造が見えて来た。早朝5時から夏の日照り、冬の極寒の中、公益仕事で得た日当は、食事代、酒、ドヤ、ギャンブル、借金の払いに消えてしまう。一生かかっても兎小屋さへ手に出来ないサラリーマンを尻目に、超豪華版の市庁舎が我物顔に次々と登場する。ODAと称して、近隣の貧しい国々に虚偽の援助を行い、その国の貧しい人々を窮地に追いこんで行く。「正義と平和」を言葉でなく、日常的に生きて行くには、自分自身の内からなる気付きと恵み、仲間の連帯が必要であることを痛感している。(M)

越冬報告書の第一回目の編集会議の後、5月11日タイに飛び立った。会議に参加するためであったが越冬学習会でこどもたちと「タイのこどもたち」を学んでいた(13頁参照)ので行ってみたい望みが強かった。夕方バンコックに着き早速自動車の洪水に出会ったが、どの車もどの車も日本製であるのに驚いた。しかも日本ではめったにお目に掛かれないような中古車ばかり。その他デパート、ホテルにまで日本企業は進出している。

その中でみた民衆の生活の貧しさ。でも若い人々がどこでも働いている。バスの運転手さんも車掌さんも二十歳代と思われる若さだった。建設現場でも青年がホコリだらけになって働いていた。農村でも水上マーケットでもこどもまでが働いていた。日本ではキタナクてもケンでキツイ仕事を毛嫌いでいる人が多い。だから人手不足に悩んでいる。しかしタイでは賃金が安くてもみんな働いている。日本の外国人労働者の現状を改めて考えると同時に多くの若い人々が働いている東南アジア諸国には未来があると思うのであった。(S)

朝鮮人の強制連行が、マスコミをにぎわしています。マスコミは本気でこの問題と取り組む気があるのかと疑いたくもありません。これまで、在日朝鮮人の人権などが言われるとき、強制連行つまり日本の植民政策との関係で、人権のキャンペーンをマスコミは真剣に主張して来たでしょうか。今回は首相の「ひとこと」で動いている向きもありますが、今度は、トコトンやってほしいと思います。

政府は、すでに強制連行の名簿は存在しないと云います。調査以前に結論がでているのです。そんな手に乗せられることなく、マスコミは、総力をあげて、その所在を追求してほしいと思います。釜ヶ崎では、年間一〇〇人以上の行旅死亡人がいます。その中に必ず、一人か二人の在日朝鮮人がいます。その年齢から推定して(六〇歳前後の人々)、かれらは強制連行世代と言えましよう。強制連行された朝鮮人が、行旅死することの意味は決して軽くありません。そんな点にだつて、マスコミは、注意を払ってほしいと願うのです。(Q)

おわびと訂正

表紙裏の追悼文に誤植がありました。おわびして、訂正いたします。

恵理香(誤) ↓ 恵里香(正)

編集部

協友会通信18 釜ヶ崎1989年度越冬

- 発行日 1990年7月1日
- 発行所 大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
- 編集 「協友会通信18」編集委員会
- 印刷所 (有)木村桂文社
- 頒価 300円